



宝町10周年

伸びゆく宝町



宝町10周年記念事業実行委員会

目 次

宝町マークの由来	1
宝町 10 周年によせて	2
町会のあゆみ	3
子ども会育成会 創立のころのおもいで	5
子ども会活動	6
宝町テレビ共同受信施設組合 10 年の歩み	7
中央公園	8
夏まつり	9
親子大運動会	10
同好会紹介	11
宝 寿 会	12
商 店 会	13
年 表	14
編集後記	15



宝町マーク（町章）の由来

昭和52年10月、町内の応募作品62点のうち市長、公民館長、町会役員等に依る審査の結果、岩瀬更生氏の作品が第一席に入選しました。（マークのイメージ）

宝町に集結する6地区（6つのダイヤ）を表現し磨かぬダイヤは価値がなく、輝くダイヤを目標に努力しよう。



宝町10周年によせて

宝町町会 会長 岩 崎 好 助

この度の宝町10周年記念冊子の発行、お目出とうございます。
県下でも成長著しい太田の住宅地として、県企業局、市当局、
そして先祖伝来の土地を提供して下さった多数の方々のご好意
によって、一面青田のこの地に、住宅団地が造成されました。
それが私達の住む宝町です。宝町が生まれて早10年、今日では
太田のモデル住宅地と、自負出来るまでになりましたが、発足
当時の先輩役員さん方々のご苦労は大変だったろうと思われま
す。当時の記録や苦労の思い出等が、発足からの10年を集録し
て、20年～30年の節目に企画されるであろう記念の手引となり
土台となれば幸いと思います。
編集に当った役員さん誠にご苦労様でした。この記念冊子が大
勢の方々に読んでいただけることをお願いいたしまして、記念
冊子発行の、ご祝詞といたします。



初代町会長

岩 瀬 更 生

任期 自 昭和51年5月30日
至 昭和57年3月31日



二代町会長

平 間 正 二 郎

昭和57年4月1日
昭和58年3月31日



三代町会長

本 多 俊 一

昭和58年4月1日
昭和60年3月31日

町 会 の あ ゆ み

町会顧問 岩 瀬 更 生

町会は、昭和51年5月30日 未整備の中央公園で、青空設立総会にて発足いたしました。当時の世帯数 337、出席数 274人と総会議事録は記しています。

これに先がけて50年晩秋、設立準備会が設けられ、将来的には2000戸が予想される町内の、運営について検討を重ねた中で、現在の町内6地区制、専門行事部制等の組織体系が生まれ、総会の承認、実施となりました。発足後数年の町会は、常に財政に苦しみながら、縦と横の組織づくりと、施設、環境整備の促進を図る一方、子ども達の行事を、中心とした「町内の和づくり」を進めました。この間、近隣の区長、議員さんをはじめ多数の方々にお骨折りいただきました。

言うならば基盤づくりの年代でした。54年以降は、各組織が自主的に活動して、活発な展開を見せる成長期に当たります。

現在の宝町は、人口、世帯数ともに、太田第一の行政区に成長し、生活環境も「太田一の明るく、住みよい、活力に満ちた町」と、言ったら言い過ぎでしょうか、でも近い所にあることは確かだと思います。

住民の殆どが、町の役員経験者です。苦しかった時も、困った時も、常に事態を真剣にとらえて、一つ一つ改善を積み上げてきた皆んなの努力が連帯意識が、今日の宝町を築き上げたのです。（年表・推移表等を参照）

10周年を機に「更に充実した魅力ある町」を目指して努力し合いたいものです。

事 業 部 の 紹 介

保健衛生部

太田市保健衛生委員として、町内の保健（予防検診、予防広報等）衛生（ゴミ、危険物、汚泥等）に関する業務で、市行政とのパイプ役を果す。健康で、清潔な町づくりの裏方役です。皆さんの理解ある協力をお願いします。

交通安全部

太田交通安全協会員として、登下校時の旗振り指導、自転車乗り方教室開催、日常の交通安全監視、指導等と啓蒙に当たっています。
「皆んなの努力で、無事故の町へ」

防 犯 部

太田市防犯委員として、防犯意識の啓蒙、巡回広報活動、防犯体制診断等のほか、防犯灯の増設、維持管理を行い犯罪や事故のない町を目指して、主に夜間活動しています。自分の家は、自分で守る。責任ある防犯対策を。文化体育部

体育、趣味、娯楽等、住民の福利厚生全般を担う部門です。宝泉体協主催大会出場選手の世話、町内大会の開催、同好会との連携等、楽しく活力ある町づくりのために、幅広い活動が期待される部門です。

婦 人 部

防火と交通の2班に分けて、防火班は太田市婦人防火クラブ員で地区消防団と連携のもとに、家庭防火の指導と啓蒙を又交通班は、交通安全協会婦人部に所属し、交通安全部と連携活動をしています。

「安全は先ず家庭の指導から」

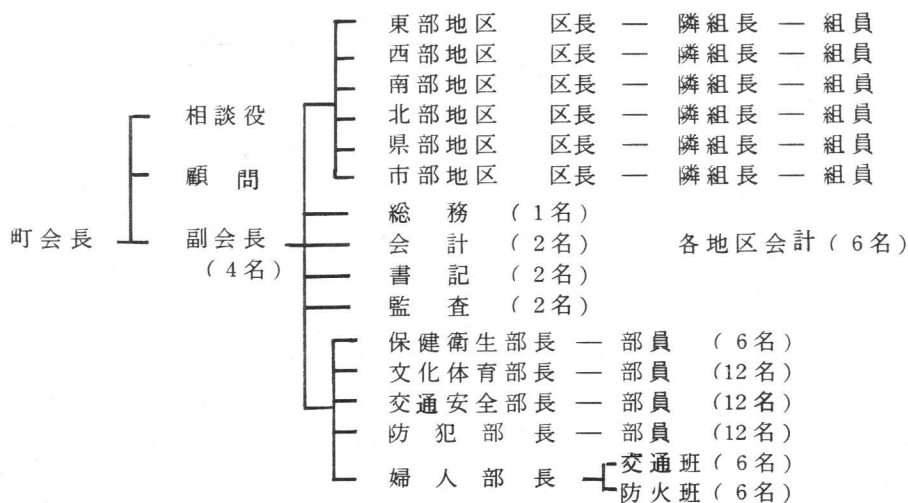
施 設 部

宝町テレビ組合の前身です。町が県企業局より、施設の譲渡を受けるに当り、組合設立までの準備業務に全力を注ぎました。組合設立以降は、公園防犯灯等の施設管理を担当したが残存各部に業務分担を定め55年末廃部。

総 務 部

予算、補助金、陳情、会議資料、その他全般の業務を行って来ましたが、町内活動の定着化に伴い57年末廃部。

町 会 組 織 図



その他公的組織の紹介

町会組織には入っていませんが、次のような公的組織があります。

老人、障害者、精薄者、母子寡婦、生活保護児童等の、福祉に関する業務を担う（民生委員、児童委員）。母子の健康、育児、生活指導等の任に当る（母子推進員）。児童の登

下校、その他公的行事の安全を指導する（交通指導員）。その他、統計調査員、少年警察協助力、青少年健全育成推進員、青少年育成補導推進員、宝町駐在所連絡協議会等、国や県、市、警察等から委嘱を受けて町内で活動しています。

子ども育成会

創立のころのおもいで

昭和53、54年度

子ども会育成会 会長 庭山 熙彦

昭和50年にはチラホラ新築され始めた宝町も昭和51年にはしだいに増加していった。まだ組織的なものは何もなく、誰もが新天地を求めて来た人ばかりであり近所のおつきあいも手伝いを通して、その輪は広がっていった。町会の総会が開かれたころ南部の区長さんに「いっしょに子ども達とやりましょう」といわれ、いっしょにやることになった。

宝泉地区に「子ども会連合会」なるものがあり、野球やソフトボールそして秋には子ども会の大会があって22~3の子ども会が一同に集まって終日楽しくすごす事や、それに参加するには行政区に子ども会の組織が必要であるということなど聞いたが東部地区では、すでに子ども会育成会を結成し宝泉地区に仮加盟したので南部でも子ども会を作ったらどうかという事になり、南部の区長さん外何人かの発起人が集まり南部の子ども会育成会の会則の草案も出来上り設立をいつにするか活動方針をどうするかなど語り合い51年度にす



子ども会大会 体力測定

るか52年度にするかのつめに入った段階で町会レベルで一考を!!ということになり、町会では一つの組織体として発足することが、よりベターであるとの判断で、昭和52年新年度より宝町全区一体となって設立しようと云うことで衆議一決し、すでに東部地区子ども会育成会の結成に尽力された会長関城さんをお呼びする中で昭和52年7月に正式に宝町子ども会育成会が設立した。

子ども会育成会・会員数

(小学1年~中学3年まで)

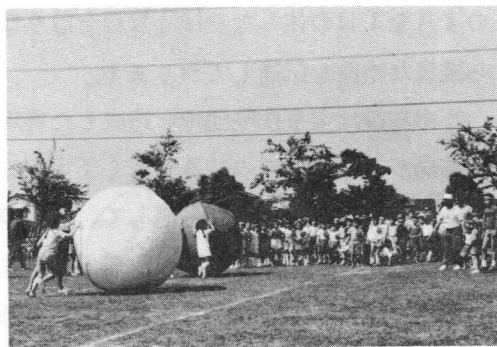
地区 年度	東	西	南	北	県	市	計
58	242	113	253	248	55	86	997
59	243	120	256	263	58	94	1034
60	235	117	253	287	48	108	1049

子ども会活動

子ども会 会長 鈴木小百合

4月に各地区(6ブロック)の子ども会役員が集まり宝町子ども会の役員を決めます。今年は北部地区から会長が選ばれるとのことで、北部の役員で話し合って会長を決めました。多くの人は子ども文庫の係にあたり、各地区の係の人が交代で月2回の子ども文庫を開いています。子ども文庫には寄附された本や資源回収で集められた貴重な本の一部などが納められています。本の外に「オセロ」や「しょうぎ」などの楽しめるものもたくさん置いてあります。子ども文庫は中学生も利用してくれますが、子ども会、育成会の行事となると参加する中学生は少なくなっているようです。これからは小さい子も参加出来る行事を考えたり中学生まで、すすんで参加できるような子ども会になったら素晴らしいと思っています。

子ども会は小学一年生から中学三年生までが会員ですが、中学生になると部活や進路な



子ども大会 大玉ころがし

どで役員として活動することがむずかしくなり小学6年生が中心となってしまいます。子ども会は子ども会独自で活動されるべきなのでしょうが、子ども会育成会の各行事に参加すると、子ども会独自の活動をするのは、たいへんです。育成会の方から言われた行事に参加するのは良いのですが、子ども会で考え計画し、行動することは勇気のいることなのです。



キャンプファイヤー



おばけ大会

宝町テレビ共同受信施設組合10年の歩み

テレビ組合長 柿 沼 法 明

宝町テレビ組合は町会の歴史と同様、10年の才月を1日の休みなく保守管理を計りながら優良な映像を伝送しております。

この施設は宝泉住宅団地を造成した群馬県企業局が、この地域の特殊事情（予定地に二条の高圧電線が横断）を考慮して、団地の美観をそこねず、テレビ、FM放送の良好なる受信状態を得る為、NHK前橋放送局の指導のもとに設置した共同受信施設です。

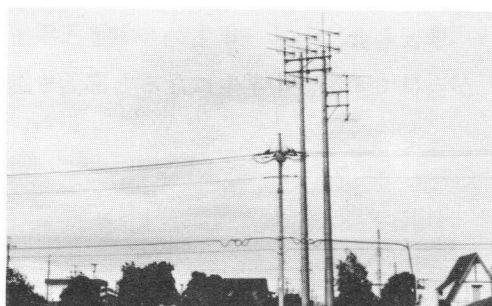
- 51.11 群馬県企業局よりテレビ共同受信施設の譲与。条件として維持管理する事。
宝町テレビ共同受信施設組合発足
各ブロック2名による組合役員で構成する
初代組合長 岩田勝己氏就任
- 52.2 宝泉住宅団地CATV線共架契約を東京電力及び日本電信電話公社と締結する。
- 52.5 有線テレビジョン放送施設設置許可を郵政大臣より認可される。
許可番号第10004号
関東電波管理局放送部監理課宛 有線テレビジョン放送業務開始届けを提出受理される。
NHK他民放各局と群馬テレビFM東京計9局に対して放送再送信同意書を書面にて申込受理される。現在も2年に1度契約を更新続行している。
- 54.4 組合長 岩田勝己氏退任後 柿沼法明就任
- 57.7 関東電気通信監理局放送部有線放送課による立入検査 合格
- 57.9 最初の自主放送に成功する。宝町夏まつりのビデオ放送
- 58.3 12チャンネル用コンバーター浸水による不良交換する。
- 58.5 UHFアンテナ4基交換する。ステンレス製高感度アンテナに取替る。
- 59.7 宝町集会所内に自主放送設備機器を設置する。

- 60.8 宝町集会所内の自主放送設備機器に落雷、音声回路不良修理する。
- 60.9 関東電気通信監理局放送部有線放送課による立入り検査合格

施設の主な諸機材内容機器

- | | | |
|---------------|--------------|-----------|
| 1. UHFアンテナ 8基 | 1. ブースター | 5台 |
| 1. FMアンテナ 2基 | 1. コンバーター | 8台 |
| 1. パンザーマスト 2基 | 1. ヘッドアンプ 装置 | 1台 |
| 1. 避雷針 | 1式 | 1. 乾線増巾器 |
| 1. アンプハウス | 1棟 | 1. 同軸ケーブル |
- 12,000米

これらの機材により電波を受信して、更に強力な電波に増巾して各家庭に伝送しておりこれらの機材を全額に換算すると約24,000万円相当になります。この様に優秀な機材一式を譲与された当組合の責任は重く、これらの機材を大事に運用すると同時に適切な保守管理を実施しながら常に最良の映像を伝送している。



宝泉住宅団地テレビ共同受信施設(CATV)説明板

この施設は宝泉住宅団地内のテレビ視聴および美観上等の対策として昭和50年6月5日に設置完成されたもので本団地内の各住宅へ常時良好な画像を提供することを目的とし、株名山にある中継局(群馬サテライト局)からのUHFの電波を受信しこれをVHFの電波に変換して再送信しています。

送信波は	NHK総合テレビ(1CH)	フジテレビ(8CH)
	NHK教育テレビ(3CH)	NETテレビ(10CH)
	日本テレビ(4CH)	群馬テレビ(11CH)
	TBSテレビ(6CH)	東京12チャンネルテレビ(12CH)

以上のテレビ放送8波とNHK-FM(前橋)およびFM東京のFM放送2波の計10波です。この受信アンテナは地上高約20mあり、各局ごとのアンテナと万一の事故に備えての予備アンテナを有しています。

設置者 群馬県企業局
(施工業者 サンユー電子株式会社)

宝 町 中 央 公 園

中央公園管理者 高 木 勝 治

太田市で一番広い公園です。1ヘクタールもあります。今年五月には太田市で一番きれいな公園として市長さんから表彰されました。一年に2回、宝町民によるクリーン作戦の一環として、中央公園はまとまってきれいになり、二ヶ月に1回、各地区順番によった重点的清掃でまとまりがつき、日常的には中央公園会の方々他いろいろな人達の創意工夫によって中央公園は何時も明日に向けて少しずつ開発されています。

今では中央公園に方々の幼稚園、小学校などから遊技、写生会などにきてくれるようになりました。一年中花が咲き、ゴミがなく、そして広い中央公園ですからみんながよろこんで安心して楽しんでくれます。

10月末、宝寿会、公園会の方々の協力を得て1300個のチューリップの球根を植えました。来年の春がとっても楽しみです。私は、中央公園を楽しいきれいな公園として維持するた



乙女の像と宝泉住宅団地の碑

めには、今を維持しようとするのではなく、常に明日を夢みて、詩が生まれ、感動に出会える中央公園を考えて、そして、今の中央公園を管理することだと思っています。

中央公園づくりは単なる公園づくりではなく私達の町、子ども達のふるさとの宝町、その町づくりの道標のような気がします。

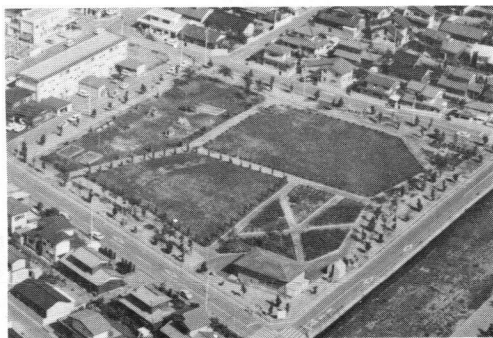
中央公園がもっともっときれいに楽しくなる時、宝町がきっと、もっともっと住みよい、りっぱな町となって発展するでしょう。

~~~~~

## 宝町内に設置されている公園 9ヶ所

|           |    |               |
|-----------|----|---------------|
| 宝町中央公園    | 東部 | 1.0 0 ha (面積) |
| 宝町 東公園    | 東部 | 0.1 5         |
| 宝町 西公園    | 南部 | 0.1 5         |
| 宝町 南公園    | 東部 | 0.1 5         |
| 宝町 北公園    | 北部 | 0.1 5         |
| 五反田公園     | 東部 | 0.2 5         |
| 飯玉公園      | 北部 | 0.2 0         |
| 一番公園      | 南部 | 0.1 9         |
| 二番公園(県営裏) |    | 0.1 6         |
| 宝緑地       |    | 1.9 0         |
| 宝町全町      |    | 79.0 6        |

~~~~~



空から見た宝町中央公園

夏まつり

夏まつり実行委員会書記

清水 弘

宝町の二大行事には、夏まつりと運動会があり、夏まつり、運動会共に数年前から実行委員会組織を結成して、その行事に取り組んでいるが、それまでは、夏まつりは町会が母体になり、運動会は育成会が母体となっていた。夏まつりは町会の結成した昭和51年の夏に「子ども達のために」何かを……という育成会気味な恰好で、金魚すくい、スイカ割り、夜は8ミリ映画を楽しんだ。始動したばかりの町会に、来年こそは!!という意気もあった。昭和52年は宝町納涼まつりに準備も進み大型トラック2台の荷台が舞台となった。紅白の幕を配し提燈を飾り樽みこしを作り、まつりの基礎が出来たような感があった。昭和53年には立派な神輿が出来、これは個人のものであったが後に町に寄附された。またまつりのムードが高まったことは言うまでもない。

このようにして、夏まつりは多くの人の協力と努力によって、まつりらしいまつりに変化していく。

納涼まつりから夏まつりへ「ふるさとづく



おまつり広場

り」の夏まつりが叫ばれ、すでに、ふるさと感じる青年も多くなって来た。

太田まつりには、子どもみこしと山車(飾り付屋台)が2年連続で参加し、三台の山車は夏まつりのメインとなり中央公園のおまつり広場での披露に涙する人、胸の高鳴りを抑えきれない人、そして夏まつりの終焉となるのだが、これが定着したようだ。それには数年前からの実行委員会組織にあるのだと思うし「おまつり会」の協力があるのだと思うが、何といても最大なことは、町の全体が夏まつりを理解し、協力しようという気運に恵まれて来たことだと思う。

- 51年 子ども納涼大会
スイカ割り・金魚すくい・夜8ミリ映画
- 52年 納涼まつり トラック2台で舞台を作る
提燈 200 個 樽みこし(子ども大人兼用)
- 53年 木のヤグラ借用(藤阿久・椿森)
神輿(大人用)出来る。土・日曜2日間の祭
- 54年 木のヤグラ借用(藤阿久・椿森)
神輿(子ども用)出来る
- 55年 工事用の鉄骨の足場を利用して舞台を作る
併設おばけ大会
- 56年 鉄骨のヤグラ(舞台)を作る(町所有)

- 56年 山車(飾屋台)東部地区で動かす。
まつり後「おまつり会」発足
- 57年 夏まつり実行委員会組織となる。
山車町全域に廻る。群馬テレビで放映
- 58年 山車2台出来る太田まつり子どもフェスティバルに参加
- 59年 山車1台作成3台になる。太田まつりに山車
(本町通)子どもみこしエリマキトカゲ参加
おまつり広場で山車おはやし披露
- 60年 宝町10周年記念夏まつり
太田まつりに山車参加

宝町親子大運動会

第6・7回

親子大運動会実行委員長 木 幡 丈 文

1. 設立の動機と背景

育成会創立の翌年の第五回宝泉地区大運動会（昭和53年9月24日）に“宝町で運動会をやろう”と言う機運が熟していた。大勢の選手から切々たる心情が訴えられた。育成会々議々事「宝町町内親子大運動会」が協議されました。

「新しい町に移り住んだ大人には、ふる里があるが、宝町で生れ育つ子どもは宝町がふる里になる」全員一致で可決した。

町会、出場選手の多勢の協力を経て「子どもを主体とした宝町町内大運動会開催」がスタートした。

育成会を母体にした第一回実行委員会が昭和53年10月3日に開かれ10月29日までの短期間という毎晩会議の連続でした。本部、地区の熱心な役員により周致な計画が練られた。実行委員会のあらまきは、第8回実行委員会の原形を成している。

2. プログラムの沿革・規模

回数	年月日	場所	名称	種目数	延人数	支出金	主 催	後 援
1	53.10.29	宝小	宝町町内親子	21	168	174,335円	子ども会育成会	町会・育成会
2	54.10.14	"	大運動会	21	227	182,240	町会・子ども会育成会	商 店 会
3	55.10.12	"	"	22	246	248,170	実行委員会	共 催
4	56. 9.25	"	"	22	313	281,796	"	町会・商店会
5	57.10.17	宝中	宝町親子	23	413	417,140	"	子ども会育成会
6	58.10.30	"	大運動会	21	335	432,344	"	"
7	59.10.21	"	"	22	327	487,615	"	"
8	60.10.13	"	"	22	327	503,083	"	"
地区シンボルカラー		東部一黄	西部一赤	南部一紫	北部一緑	県一オレンジ	市一青	
得点基準一1位…6点 ～ 6位…1点								

4 提 言

子どもが成長し 親が年を老いても その時代に応じた楽しい

宝町親子大運動会を創っていくでしょう

3. 現 況

はじめに……例年育成会々長が実行委員長に任命される。

小委員会・実行委員会で細目協議決定される。

① 小委員会・実行委員会の報告・協議事項の概要

プログラムの決定－予算案－役員名簿－選手名簿－準備安全・競技役員の分科会
競技組合せ－地区実行委員会・子ども応援団の状況－反省会 決算報告により委員会
は解散

② 組織

大会役員

会長 町会長

副会長 副町会長

実行委員長 育成会々長

副実行委員長 町会長副・育成会副

本部役員－総務・会計監査・接待・医務・放送

準備役員－器具調達・競技準備

安全役員－交通・防犯

競技役員－審判長・スターター・決勝・記録
賞品・進行・召集

同 好 会 紹 介

現在宝町では、次の様な同好会が活動しています。文化関係ではコーラス、詩吟、民謡、将棋。体育関係では男子ソフトボール、女子ソフトボール、男子バレーボール、女子バレーボール、野球、卓球、ゴルフ、スキー、バドミントン、ゲートボール、等です。

この同好会も今少しで結成 10 周年を迎えようとしています。宝町が誕生して町会組織が発足し、太田市の一行政区として宝泉地区の皆さんとの交流が始まりました。それは昭和 51 年から 52 年にかけてでした。当時を振り返って見ますと、まだ建家も疎らで町内住民間の面識も少なく、宝泉地区から様々なお誘いを受けても誰がどんな特技、才能を持っているか分からず町会役員さんは人材探しに大変に苦勞された様でした。募集回覧を、戸別訪問をして町民相互の親睦と連帯意識の高揚を計れる豊かな町作りに努力して戴いた事は忘れることが出来ません。私ども同好会が

卓球部 代表 辻 俊 夫



同好会も協力して…

結成されたのも、そういう役員の至誠に感銘されたのと、住民各位の深い理解と協力が一致されてでの事だと思われます。おかげ様で宝泉地区での活動も定着されて同好会も、ここまで成長することが出来ました。今日の社会では人間が機械化され人間本来の持つ美しい姿が失われつつあると聞いています。

今後も文化、体育を通じて人間味あるふれあいの宝町形成に努力して行きたいと思えます。



ゴルフクラブ



女子ソフトクラブ

宝 寿 会

宝寿会 会長 中野梅三郎

宝町とともに発展してきました。高令者クラブ、宝寿会は昭和54年4月8日、太田市並びに市老人連合会のご指導により、若い街、活動する街に、53名の会員をもって誕生いたしました。

昭和49年に造成が完成して、50年11月に宝町という街が、誕生しましたが、若者の街と言うと、おおげさかもしれませんが、わが宝町は、市内の街に比較すると若さと活気あふれる街と言われています。

その中で私たち老人は、お互に、仲よく楽しく励まし合い、常に心身の健康を保ち、教養を高めながら明るい生活をを進めることを目的

に、みんなで話し合い、ためになる話を聞き楽しみの会をもち、社会のためになる奉仕をしています。

街が成長するとともに、私たちも成長しています。私たち会員は、お互いに信頼して、自分のため、街のために活動し、住みよい街、子どもたちの街になることを願っています。

今後も活気ある街になるため、夏まつり、運動会を中心に、宝町が一つになり街づくりに努力しようではありませんか。

そしてこの宝町が、子どもたちから老人までが仲よく助けあい協力しながら発展することを願います。 …写真…ゲートボール大会



町内の隣組数と戸数

地区	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5	5 6	5 7	5 8	5 9
東	9 6	15 181	16 200	16 200	16 202	16 202	16 212	16 212	16 218
西	65	7 102	7 102	7 103	7 104	7 104	7 105	7 106	7 105
南	88	15 169	15 178	20 196	20 211	20 215	20 222	20 228	20 230
北	80	12 146	13 152	15 183	17 194	17 203	17 220	20 235	20 245
県	57	12 80	12 80	12 80	12 80	12 80	12 80	12 80	12 80
市		8 64	17 118	21 150	21 150	21 150	33 250	37 278	37 278
計	387	69 742	83 830	91 912	93 941	93 954	105 1,089	112 1,138	112 1,156

(年度末市広報配布数より) 組／戸数

宝町商店会

商店会 会長 岩崎好助

宝町商店会は、町会、子ども会育成会等の
発足より若干遅れた昭和52年8月に発足し、
8年間に及ぶ月日の流れの中に会員も増加し
今日に至っている。

会の事業として、街路灯を店毎に設置した
ほか「宝町の夏まつり」「宝町親子大運動会」
の共催等を行い少しでも町のお役にたてば
と考えております。



南商店街



東商店街

又、今回宝町十周年記念行事に参加する意味
も含めて、三度目になりますが「町内地図」
を作成し、各戸に配布すべく準備を進めてい
ます。宝町あつての商店会であることを常に
念頭におきながら、会員相互の連帯を深め、
地域住民との融和を図り、宝町発展のために
努めて参りたいと思います。



《 宝 町 年 表 1 》

年 月 年 中 実 施 項 目

50. 4. 県営A棟完成し入居はじまる。

4. 公社住宅 ”

10. 町会設立準備会(50.10 ~ 51.4)

11. 宝町集会所建設を県企業局へ陳情

51. 3. 県営B・C棟完成

51 年度

51. 5. 宝町町会発足

町内公園整備陳情(初) 市

バス路線設定陳情(初) 企業局 一東武バスー中央バス

郵便局設置 陳情(初) 企業局 一郵政

8. 第一回夏まつり(子供納涼会) 15日

宝泉地区運動会に初参加(資金カンパ¥48,900)

11. 宝町テレビ共同受信施設組合設立 組合長 岩田勝巳)

12. 第1回子どもクリスマス会(於宝診療所) 11日

12. 群馬銀行宝泉支店開店(開店披露費用を集会所備品寄附14日)

52. 3. テレビ共同受信施設の譲渡契約 県企業局ー宝町

3. 交通指導員推せん(初) 小泉 晟

3. 市営住宅76-1 76-2 棟完成

3. 中央公園(第1期)東公園 西公園完成

3. 下水道洩水に伴う工事实施(200-837番地内)

52 年度

52. 4. 宝町集会所完成 電話設置

5. 宝町集会所貸借契約締結

6. 宝泉学童保育所(ドングリクラブ)開設 宝町有志 米田一男

6. 第1回町内用水路清掃実施

7. 宝町集会所にアミ戸寄附を受ける

7. 宝町子ども会育成会発足(登録児童304人)会長 関城由作

7. 宝町マーク(町章)の募集

8. 祭り大鼓の寄附受ける(桐生信金)

8. 樽みこし2基作成(初)

8. 書類ロッカー寄附受ける(群銀)

8. 祭り提灯200個揃う 有志寄附

8. 宝町商店会発足 会長 高木勝治

11. 町内道路全面再舗装完了

11. 押売り、サギ行為が横行

11. 宝泉育成会子ども大会開催(初) 宝町 総合3位

12. ストープ4基、拡声装置、カーテン集会所に設置

53. 1. 交通路面標識工事完了

3. 掲示板増設工事完了(初)

3. 交通信号機設置1基

3. 模擬火災訓練(宝町大火第1~3出場)

《 宝 町 年 表 2 》

年 月 年 中 実 施 項 目

53. 3. 宝町駐在所完成
3. 市営住宅77-1~3棟完成

53年度

53. 4. 宝泉中学校開校
4. 衛生モデル地区に指定受ける
5. 防犯灯20灯の寄附受ける(宝診療所)
7. 宝町新橋建設陳情
8. 航空機遭難事故(故正田賢司氏)搜索協力
8. 夏まつり 本みこし完成 町内有志
8. 老人クラブ結成の案内(初)
9. 中央公園(第3期)市営78-1棟工事開始
10. 第1回宝町運動会開催 29日
54. 1. 宝町新橋(中央公園南-Aコープ)完成
3. 市営住宅78-1棟完成 入居開始

54年度

54. 4. 宝町老人クラブ(宝寿会)発会式 会長 中野梅三郎
4. (主な陳情) 宝町東入口道路拡巾直線化
4. " 宝小の宝町側通用門設置について
4. 第1回町内各種(文化、体育)大会開催
5. 太田市防犯委員会表彰
8. 本みこし(小)完成 町内有志
8. 第1回町内功労者表彰 11日
10. 路線バス開通(東武バス)1日7往復
12. 宝郵便局開局 1日

55年度

55. 4. 婦人防火クラブ発足(初) 柴里子
6. 水難防止看板設置(17箇所)
10. 民生委員推せん (初) 伏島光男・宗像宏侑
10. 福祉優良地区表彰
56. 3. 少年警察協助力推せん(初) 小西宏・本多俊一

56年度

56. 8. まつりヤグラ新設 町会
10. 母子推進員推せん(初) 岡田暎子
12. 駐在所火災消失 26日
57. 3. 緑地に防犯灯新設(7灯)
3. 集会所書庫ロッカー等購入
3. 市営住宅81-4棟完成入居

57年度

57. 6. 防犯部市長表彰
12. 宝町駐在所連絡協議会発会 会長平間正二郎
58. 3. 駐在所再建完工

《 宝 町 年 表 3 》

年 月 年 中 実 施 項 目

58. 3. 市営住宅82-4棟完成入居

町会が増設した防犯灯

58年度

58. 8. 集会所倉庫完成

10. 第1回全地区一斉クリーン作戦

10. 国民体育大会 軟式野球(宝中)

59. 1. 第1回町内新年会開催

59年度

59. 6. 交通安全立看板作成路上掲示(10基)

6. 第1回宝町健康相談会開催

10. 優良運転者表彰(銀1銅10 他1)

60年度

60. 5. 中央公園 市長表彰

8. 宝町プリティーズ小学生学童ソフト県優勝

11. タカラソフトクラブ県優勝(壮年)

年度	増設灯数
51	13
52	13
53	30 { ²⁰ →寄 ₁₀ 附
54	12
55	12
56	15 { ⁸ ₇ →緑地
57	16
58	15
59	3
60	4

宝町の人口推移

(3月末)

年度	人口	男	女	世帯数
51	1,194	616	578	342
52	2,328	1,170	1,158	666
53	2,768	1,382	1,386	768
54	3,125	1,555	1,570	854
55	3,387	1,679	1,708	922
56	3,526	1,738	1,788	940
57	3,666	1,806	1,860	974
58	4,002	1,972	2,030	1,089
59	4,165	2,043	2,122	1,135
60	4,268	2,093	2,175	1,155

町会決算推移

年度	金額
51	1,951,087
52	3,358,441
53	3,923,607
54	4,405,475
55	4,855,275
56	5,104,238
57	5,516,970
58	5,930,012
59	5,869,617
60	6,026,941

市統計資料より

地区別ベスト10(60年3月末)

順位	地区	人口	世帯数
1	宝 町	4,268	1,155
2	高林1区	3,441	960
3	東別所	3,134	863
4	飯塚町	3,043	956
5	内ヶ島	2,880	884
6	鶴生田	2,610	726
7	飯塚町	2,591	956
8	浜 町	2,476	845
9	市 場	2,449	655
10	由良1区	2,324	681

夏まつり決算推移

年度	金額
51	10,000
52	558,898
53	545,349
54	679,350
55	681,627
56	1,048,760
57	2,078,997
58	2,879,953
59	2,004,529
60	2,376,532

市統計資料より



諏訪下遺跡出土品（清水家蔵）

今から千年程前、奈良・平安の時代、この地にも生活の匂いがあった。それから時代は移り、その地は五反田遺跡、諏訪下遺跡と姿を変えていた。近年、群馬県企業局の土地区画整理事業が進められることになり、この遺跡の調査がなされ、五反田遺跡は五反田公園として一部保存され、諏訪下遺跡は宝町中央公園及びその南方に位置されることになった。

私達の住むこの住宅地は、由良、沖野、別所、西野谷の一部168名の（宝泉住宅団地之碑より）地権者の協力のもとに造成された。造成地は仮宝町として昭和49年に

一般分譲宅地

太田市民分譲宅地

県住宅供給公社用地

公営住宅用地（県営及び市営）

勤労者住宅協会用地

企業社宅用地

店舗及び医療機関用地

教育施設及び公共施設用地
（学校・保育園・交番）

などの区画が定められた。

昭和50年11月29日には土地区画整合法換地処分がなされ宝町が誕生したことになる。家屋が建ち並び始め、市とのパイプ役を宝町に居住する市の職員の方々が果してくれる中、東奔西走し昭和51年5月30日自治体の総会発足を見た。

編集後記

宝町の十周年は昭和58年12月7日の町会、育成会の「合同会議」席上で公にされ双会共に委員を決めるなどの準備が進められたが、今年度は町会、育成会共に役員が交代し、一時中断を経て記念誌委員長が昭和60年11月1日承認され、外3名は11月15日に至って承認決定となり、1ヶ月の期間で小冊子を作成しなければならない土壇場である。しかも印刷屋さんは年賀状の印刷の忙がしい中の割込みをお願いし期間と予算を考え討議の末、原稿依頼し一夜のうちに原稿を集め補足を加えたものであり、宝町10年に及ぶ資料の山を横目で見つつ、資料の生かすことの出来なかったことは誠に心残りではあるが今後、宝町史の必要性を感じ得る気運に恵まれたことは、この上ない喜びである。

なお、本小冊子を作成するにあたり宝町に住む県職員、市職員の協力があったことを特記したい。（清水記）

発行

宝町10周年記念事業実行委員会

発行日 昭和60年12月15日

発行部数 1,300部

編集委員会 岩瀬更生（委員長）

本多俊一

柴 里子

清水 弘